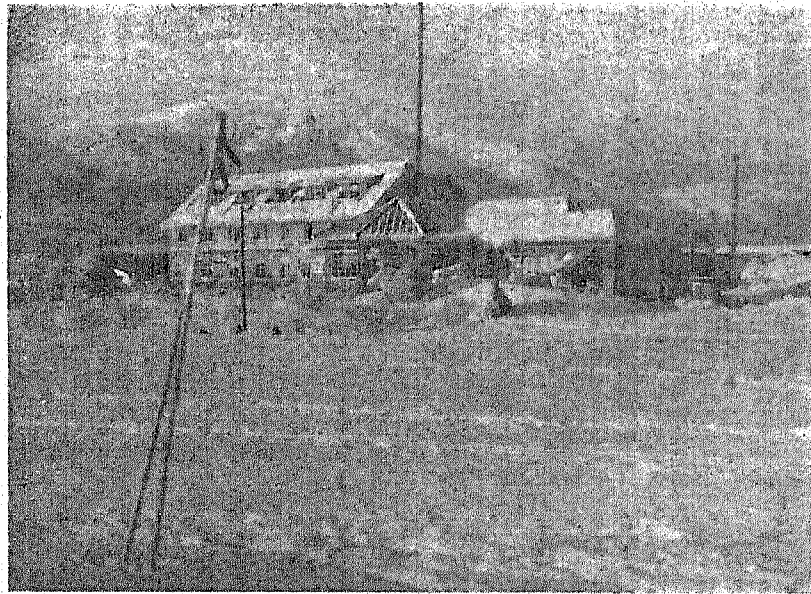
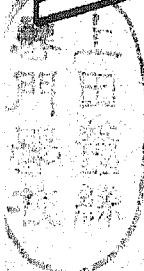


報會曲千

日五十二月二年七十和昭

號 四 十 第

會曲千人法團社



景 風 平 菅

目 次

- △菅平風景……………(一)
- △科擧振興の基本羽島不二夫(三)
- △病窓談義……………大悟(三)
- △幸福とは……………藤松生(四)
- △母校懐り……………(五)
- 自衛團編成
- 學生義勇軍冬期訓練
- 週番制を設く
- 敬禮を舉手注目に改む
- 冬期體育週間
- 武道寒稽古
- 日本文化講義
- 纖維動植物學をやる
- △本會記事……………(六)
- 本會日誌
- 神奈川支會役員異動
- 遠藤先生退官記念資金報告
- 統後資金受領報告
- 會費領收
- △敍任辭令……………(六)
- △會費通債……………(六)
- 時の流れ……………絲廿七一心會
- 三福會……………大塚生
- 入營を祝つて……………絲廿八
- △計 報……………(七)
- △會員勸誘……………(八)
- △原稿募集……………(九)
- △千曲會指定旅館案内……………(十)

科學振興の基本

羽島不二夫

(一)

大東亞戰勃發して二ヶ月、その間東は太平洋の中央部より南は南洋諸島に至る廣大な戦域は早くも皇軍の制壓する所となり、ここに我が國は不敗の地歩を確立するに至つた。この大戦果は戦略的に經濟的に今後の戦争遂行の上に測り難い意義を持つものであるが、他而これだけで直ちに戦争終結への見通しをつけ得るものでなく長期戦へ入るべきは識者の均しく認むる所である。

現今の戦争が戦線に於ける角逐に終始するものでなく、國家の總力戦なる事は言ふまでもないが、わけても長期戦に於ては物心両面に亘る戦後の底力の戦局に及ぼす影響は格段に大きいと見なければならぬ。國民の持久力、團結力は言ふに及ばず政治、經濟、産業文化、更には是等を集約して戦争遂行のため凝結せしむる統制力に至るまで、その一つ一つについて彼我の間に三年、五年或は十年後の戦勝を期して激しい力較べの戦が展開されておるのである。而して御稜威の下、國家の危急に際して發揮される國民の團結力と滅死奉公の精神力に至つては、我は彼に匹敵を絶するものがあり、又經濟的方面に於ては、幾多重要資源を包蔵する南洋諸島を傘下に收めんとしてゐる今日、洋々たる前途を約束されるに至つた。

たゞこの明るい戦局の展望に拘らず、我々が問題とせざるを得ないのは我が國の科學的水準如何といふ點である。戦時、平時の別なく國家民族の存立發展の上に科學の重要なことは言ふまでもないのであるが、わけても科學戦といはれる今日の戦争に於けるその役割は兵器彈藥その他の軍の裝備を一併しただけで思ひなかに過ぐるものがあらう。然らば戦捷への決定的要因たる

我が國の科學的水準は如何、その解答は見る人の立場によつて様々であらう。然し少くとも、世界の一流の科學國に比較して遜色なしとして自ら安んずべからざることは、殆んど凡ゆる科學的領域に於ける専門家が異口同音に我々に警告してゐる所である。明治初期に西洋の科學をとり入れて八十年、未だに我が重要生産部門の科學技術は外國のものに依存してゐると言はれてゐる。而して今やこの科學、技術の輸入の道も絶えた、國民の科學的水準を高め、科學の自給自足體制を整備するの要今日より急なるはない。

科學振興の要かくも大なるに拘らず、從來我が思想界でかくこれを駁下する傾向があつた。その根據を一言以て要約すれば、科學の抽象性と科學の據つて立つ合理主義に對する不滿にあると言へよう。科學の抽象性、合理主義の傾向は、動的、統一的にして非合理的な人生、世界の本质に與らずといふ見解である。

此の見解は科學萬能主義への抗議としては、慥かに有効なものであらう。然し乍ら、若しそれが科學獨自の領域を犯干し、人生、世界に於て占むる科學の正當な地位を剝奪するに於ては、非常な行き過ぎと見なくてはならぬ。既に國家民族の存立、發展といふ一事について見ても、科學の持つ意義は決定的に重大である。この事實に眼を蔽ひ、猥りにこれを駁下するとき、やがてかの「抽象的」なる烙印は自らの頭上に押されるであらう。

科學のことがザリナリズムの波に乗り、國民の間に目立つて喧傳され始めたのは、つひこの前の西部戦線に於ける獨逸の壓倒的勝利に刺戟されて以來のことである。とにかく今我が論壇での最も目新しい題目の一つは科學であり、その振興が重要國策の一つに擧げられるに至つたことは、科學がその正當な地位を取戻す上に大いに意義がある。

一口に科學と言つても、問題の取上げ方によつて種々の方面に分れるのであるが、これを要約して、科學、技術の應用、科學理論の研究、國民一般の科學的教養の向上の三方面に分ける事が出来よう。而してこゝで取上げるのは國民の科學的教養の問題である。

(二)

科學、技術の應用、科學理論の研究、科學的教養の向上と分けてみても、三者互に密接な關聯を持ち、眼界的判別し難い部分のあることは言ふまでもない。この分類は蓋然的なものに過ぎないが、現今の科學論議は主として應用と理論の方面に向けられ、教養の方面に關する配慮は比較的薄いのではないかと思はれる。

科學的教養の向上は科學的水準を引上げることに外ならないのであるが、これが出来るかにかに於ては専門領域に於ける科學の業績について大に期待することが出来ないものである。蓋し應用も理論も、直接これに携はる人々の事とする所であるが、民族的、社會的などの背景とすることなくして、十分な威力を發揮することの出来ないのは、他の凡ての文化部門に於ける場合と同様であるからである。

科學的教養の向上に關しては科學知識の普及と科學の生活化といふ様なことが唱へられてゐる様である。何れも無用であるとは言はぬ。然し單に個々の科學知識を身につけたら科學技術や科學器具を日常生活に取り入れたらだけ國民の科學的水準が高まると考へるならば、見當違ひであらう。

根本的な方策は、我が國土に科學の根を植へつけようである。國土に科學の根が張つて、一般國民の頭腦が科學頭腦となり、眼が科學眼となるに至つて始めて我が國の科學的水準が高まつたと言ひ得るのである。この點について最も遺憾なのは、我が國の科學が土著的のものでないことである。周知の如く我が科學は主として明治初期以來外國のもの移植したものである。而もその仕方

は根に培ふよりも枝葉を受繼ぐに急であつたと言はれてゐる。そしてこれも吾々は承認しなければならぬのである。その證據に、専門的研究の方面に於て可成り顯著な進歩を見せてゐる反面、大衆の科學的教養は未だ蒙昧の域を脱し切つてゐないのではないか。少くともさういふ節が目につき過ぎないか。かうなると結局、科學が國土に根を下すといふ段から相當距離があると見なくてはならぬ、これは我が國にとつて忽がせに出来ない重大事である。

科學的な訓練や知識の把持が、科學的教養の向上に資することは否めないものである。然し乍ら中樞の問題を度外視した訓練や知識がどの程度に科學的教養の向上に與かつて力があるかは、幾多の迷信や似而非宗教、非科學的な因習等が、世の中に跳梁跋扈し、而もこれ等が相當な知識人の間に地を拂はずにゐるのを見れば思ひ半に過ぐるものがあらう。

訓練や知識は必要である、然し中樞自體を轉回することなくしては、訓練や知識は十分な力を發揮することが出来ないし、又科學的教養の向上といふ點から見てもその力は微弱である。

近頃「科學する心」といふ様なことが言はれてゐる。それはありのまゝの自然をありのままに捉へる心などと言はれてゐる點から見ると、單なる訓練や知識でなくして心即ち中樞の問題に觸れてゐる様に思はれる。然しこの新しい言葉の内容を仔細に検討すると、人と自然即ち主觀と客觀との形而上學的な關係例へば物心一如の境地といふ様なこととなるやうである。科學する心が行とか道とかいふ言葉で現はされたる場合殊にさうである。かゝる見解は所謂東洋的な學問のしかたとして見る場合、極めて興味あるものであるし又廣く吾々の世界觀とか乃至は修學の態度として考へる場合に意義深い教訓であることは槩かである。

然し問題になつてゐるのは科學である。科學が問題になつてゐる場合に、宗教、道徳上

の述語を持ち込むのは、問題の焦點を曖昧にしはしないか。科學する心も統合的な精神活動の一つの現れであるから、宗教、道德、方面の精神活動と不二者であるといふのならば、わざ／＼「科學する心」といふ言葉を用ふる必要がない。

かくて科學する心も少くとも今吾々が問題にしてある中樞の問題とは拘りがない。然らば中樞の轉回とは如何なることか、中樞の轉回といふ如きことが掌を返す如く何等の媒介なくして行はれ得るか、中樞の轉回は窮極の問題ではないのか、とにかく種々の疑問が提起されるに相違ない。

先づ中樞の轉回は知識や訓練を手がかりとするとは慥かである。然し知識や訓練はどこまでも末節であつて中樞に至る必然的経路をなすものではない、中樞はそれ自體の自發的な活動によるの外轉回する術のないものであり、外に對して働きかけつゝ自らを變化するの流に逆航して、その核心を衝かんとする睿智と氣力こそ中樞轉回の源動力である。單に外的なものを受容したり、これに順應するのではなくて主體的に環境に働きかけ、新しきものを形成して行く能動的な精神の働である。而してこれが古今の偉大な科學的頭腦の根本的特質でもある。

固より銘々の獲得する成果の大小、有無は問ふ所でない。要はかゝる方向へ國民の頭腦が向かつて行くかどうかである。

この立體的活動とも言ふべき精神の働き方が即ち中樞の問題なのである。而してかゝる頭腦の働きへと刺戟し鼓舞する方法が科學振興に於ける基本となつて来る。

次に中樞の轉回は窮極の問題でなく、出發でなければならぬ、何故なら、それは我が國土に科學の根を培ふ上の基礎工作であり、地ならしであるからである。而もこの基礎工作は必ずしも面倒な理論や訓練を経て行はれるのでなく、日常の身近な問題に科學的配慮を加へることによつて簡単に成し得られるのである。

即ち先づ吾々の生活環境から出來ただけ非科學的なものを拾ひ上げ、その本體を剔抉することに努めよ。それが我々の頭腦を刺戟して科學的頭腦たらしめ、眼を科學眼たらしむる最大の捷徑である、我が科學を土著のものたらしめる道である。

如何に個々の科學的知識や技術が進んでもうんざりする程周圍に前世の遺物とも言ふべき不合理な因習や、習俗や、縁起論などがはびこつてゐて、而もこれに縛られ生活の不便不合理を託しながら、疑問も反撥もない従順な社會に健全な科學の芽は育たないのである。

此の意味で今年の屏から六曜、九星、十二直等が抹殺されたのは意義あることである。凡そかうした吉凶判断が、五行の相勝や卜筮共に支那渡來のものであることは是等が淮南子(漢の武帝時代の作)等の支那の古書に掲載されてゐることと明瞭である。而してその論述の方式を見ると正に言語斷斷、人を愚弄しきつたものである。例へば、五行の相勝とは木は土に、土は水に、水は火に、火は金に、金は木に、夫々勝つ、故に木と土、土と水、水と火、火と金、金と木の性は相剋を來すといふ類である。

如何に因習であると謂へ、かうした放恣な思惟の所産が今日まで通用し、然も相當に市をきかせてゐるのは奇怪である。固より科學的啓蒙の效果といふ點から見て、民間信仰を一つ抹殺するかどうかに大した意義があるのではない。自己の生活に極めて密接な關係があるに拘らず、これを不問にして敢て怪しまない點に問題がある。

流される頭腦ではいけないのである。獨り迷信や因習に限らず、手近かなところどころがつてゐる不合理不可解なもの、正體をつきつめて行く反撥的な頭腦でなければ科學の方へ向かはないのである。それが頭腦の轉回である、此の啓蒙的訓練が社會的なものとなる場合に、始めて科學が土著のものとなる。

病窓談義

大悟

生れる苦しきはどうか考へても思ひ出せないけれど、生れて腹痛位しか知らなかつた自分がヒヨコンと病氣になつてもう大分なる。病氣はじめて病苦といふものを知つた。病人である内は病苦だなんて言ふが、癒つてしまふと人間の健忘症はそんな苦しみなんて忘れてくれるものである。又癒らなくとも一條の煙になればそれも何でもないものである。が、人間出來得べくんば病苦も生れる苦しみであつてほしい、その意味で少しも役立てばうれしい限りである。

四百四病の内、今日日本を悩める病は結核である。胸の病でも病原菌も各種あつて、その内結核菌による奴が多いわけで、ピンからキリ迄病症もある。

肺門淋巴腺腫脹、肺尖カタル、肺浸潤と診斷命名されても何れも同じ病で肺結核に變りはないのである。が肺門附近の淋巴腺でくひ留めてゐる間の淋巴腺腫脹といふ奴は子供(學童期)によくやましく言はれてゐる。むしろ大人も此の時に治療すれば何でもない、ん大人も悲しい哉、打診聴診で譯らない、X線寫眞ではじめて發見される、所謂早期發見であるが、こんな時季が長ければその間に發見も出來るが、一足飛びに肺全體にくるものもあるからやりきれない。

けれど、早期發見こそ現代結核治療に光明を與へてゐるものはない、その爲にX線自動車を出來間接撮影も進歩してきた。

しかし三十才になれば百分の感染してゐる結核に對し、實際問題として、健康者が一度位の診斷で早期發見出來るものでない、ツベツクとも一月もたない内に急轉直下病床につく者もある。陽性であつても一生發病しないで済む者が大部分である。

だからツベルクリン反應も見方によりけりである。その時の状態を知るに過ぎないが、厚生省勝侯博士は陰性のものが、陽性に變つてから一年間が發病の最も危険のある時だと言れてゐるが、毎月でもツベルクリンの注射せねば到底むづかしい事だ。

感染したからと言つて發病すると限らないのが結核の特徴である。感染と發病とは別である。日本ではとにかく感染は避けられないが、發病はさげられる。

發病は、体や心の無理使ひをしない事が避ける第一要諦であるが、程度も人によつて各人がめい／＼考へるより方法がない、感染しても發病する人は五〇人に一人だそうだから、ビク／＼しない方がよい。

それより發病一歩前で、くひとめることを要諦だ、X線も實際では仲々かゝる人もない。だから、體重と食慾と氣分に注意する事だ、お湯屋に行つたら月に一度は體重をみておきつたらぬ日記つける代りに體重表でも作つておくがよい、夏に五百匁前後やせるのは普通だけれどやはり秋には回復せねばいけない、理由なくやせて行く事こそ曲者だ、この時こそX線の必要を感じる。

食慾、胃も悪くないのに何をくつてもまづい、煙草もまづいこれは一度X線の必要がある。氣分、だるい、あきつばい、即ち平常より異狀がつづく、これも曲者だ。

又、體温を計ること、計り方に最も注意を要する、口中が一番いい、三分間ですむし間違ひがない、一日の最高三六度六、七分が健康者である。七度もある健康者はいないが、大抵朝は六度二分、午後が七分、夜が四分位が普通で夜八分も九分もあつたら間違ひなく微熱である。平常體温カーブを知つておく必要があるだろう、これも早期發見の一つである。(この數字は腋窩溫度で口中ではこれより二三分位高い) 咯血、盜汗、不眠、咳、痰の症狀で病を發

見したては少し遅いかも知れない、殊に咯血
 だ、だから非咯血性では発見が遅れる譯であ
 る、比較的には咯血のあるのは発見は早く、タチ
 が早いと言はれる譯も一因である。
 語は一寸外れるが、喜多壯一郎氏の語では
 相模太郎時宗も、結核だつたらしいといふ、
 彼は三十四才で死んでゐる。文永の役後不眠
 症になやみ、國土平穩を祈念しつゝ血を刺し
 金剛經、圓覺經、般若經を血書して悶つたと
 いふ、弘安之役後三年目に病を得て(病人ら
 しくなつてしまつたのだらう)再起不能にな
 つてしまつた。

建治元年秋九月、龍ノ口に元使を斬つた斷
 の一字も、結核初期の激情は、逆賊の血をひ
 く時宗を一路愛國の至情に進めたのかも知れ
 ぬ、若し、當時早期発見されてゐたらしたら
 果して、時宗この斷の一字を出し得た熱情家
 であつたらうか、病の方に少しは氣も疲れて
 あつたかも知れぬ。
 知らぬが佛、だつたかも知れぬ。
 とまれ早期発見出来なかつたとして、治療しな
 いとは限らないし、治療しなかつたとして、國
 家の御役に立たないとは斷言出来ぬ。
 犬養木堂氏が支那へ行くとき、大阪で實地
 に診た戸田博士の言葉によると、兩肺共、ラ
 ツセル(水泡音)がきえて、これでは到底歸
 つて來られまいと思つたと、氏の後年は誰も
 知る如くないか。

頼山陽、高山彦九郎、高杉晋作、渡邊華山
 木戸孝允、奥陸宗光、小村藤太郎、愛國者は
 結核人ではないか、啄木、一葉、長塚節、子
 規の文人も然り。
 外國ではヒットラー然り、スターリン然り、
 ショパン、シニバルト、ステファンソン、ゲー
 テ、支那の李白、杜甫又然り。
 何れにせよ病氣になる事は避けられない、早期
 発見も大切ではあるが、積極的に、發病させ
 ない体に鍛練しておくこそ大切であるまいか
 その爲にこそ、數多い榮養剤も眞の効果を發
 揮するので、病床についてやれヴィタミンA
 だのDだのとさわいで健康時に服用した効
 果の何分の一かに過ぎない。
 冷水摩擦もいと思ふ、空氣浴もいと思ふ、發
 病誘導の鳳那豫防の爲である。
 オフィスマンは筋肉の鍛練も必要でせうし

ヴィタミンDを加へる日光浴も必要である。
 貧血もよい様である、皆一時的であつてはや
 らぬ方がよい、健康維持に當る努力こそ健
 康への推進力である。
 煙草すつて煙にするより肝油球をのんだ方
 がいい、菓子を食べ代りにヴィタミンBだも
 かつた方が體にどれだけいいか、病んでから
 はじめて知る事だ、健康な時はその有り難さ
 が譯らず體を酷使してゐる。
 子供を持つ親はこうした點を充分注意して
 やらねばなるまい。殊に弱い學童をもつ親は
 食物に生活に一般の改善を加へねば十八九の
 夭折がある場合がある。
 毎日麵粉を食べさすとか、大根おろしをた
 べさすとか、乾布摩擦をしてやるとかの小さ
 い事で驚くべき効果があるのである。如何に
 注意し、努力しても人間は所詮生身である、
 病になるのはそれは天命である。
 早期発見、初期発見で結核だと譯つたら決
 してあつてない一事故だ、慢性病である、あわ
 なまなかつたらもう大丈夫だ。又醫師通ひも
 考へるのだ。

泰國では生活がのんびりして居り、榮養が
 充分なので結核は進行しないといふ、このの
 んびりした氣持こそ大切だ。
 仕事も責任もすて、大の字になつて居るこ
 とだ、そしておもむるに、病の参考書(療養
 書)をよんで、結核とはどんなものかと醫師
 の言ふ事を理解出来るだけの頭をつくる。
 次に指導醫をよく選ぶ事大切なことである。
 町醫師の中には又線の見方さえ知らぬ者もあ
 る、先づ安心なのは療養所を診てもらふ事だ
 ある。そして二月でもいゝ、療養所に入つて
 療養の態度と方法を學んでくる事だ。
 家族の誰かと共にす、病人一人理解して
 も家族と周囲に理解がなければ到底駄目だ、
 許される者は療養所生活を送るが、如何
 に輕症でも六ヶ月乃至一年は間違ひなく、
 早く癒しても再發しては何にもならぬ、
 結核には癒るといふ公式療法はない。
 まづ發病させない事だ、健康の有り難さを
 知つて體を可愛がる事より方法がない。
 三十才になれば殆んど全部が結核菌をもつ
 てゐる事實の前に感染を恐れる愚をすて、健
 康向上に努力せねばならぬ。

幸福とは

藤松生

人間にとつて一番大切な事は幸福である
 云ふ事だと思ふ。之を換言すれば、満足しき
 つた日を送る事だとも云へよう。つまり義理
 を考へ友情を考へて結局幸福なりとも云ひ得
 る人こそ本當に(人生の成功者なり)と云ひ
 得ると思ふ。ルンペンでも主觀的に満足して
 居ればそれで良いのだ。他人が見て可哀想だ
 と云ふ考へを假令起そうと又或る程度の危害
 を加へようと主觀的に満足して居ればそれで
 いい、ではないか。貧しい者は貧しいなりに夫
 相應の生活を營めばそれで良いのだ。
 決して他を羨む事なく自らを卑しむ事な
 く唯々平靜に毎日を感謝の念を以つて送り自
 らを反省して満足な生活をなし得る境地にこ
 そ自分はなつてみたいと希つて居る。或は平
 凡かも知れない、退屈かも知れないが僕は
 それいゝのだ。
 何一つ不平のない感謝に満ちた生活をして行
 き度い、之を僕は「幸福」だと名付けよう。

或る日の想ひ出

四月十六日

テーブルを拭き乍ら小聲で歌を唄つてた
 何時しかフランチャット、トインの歌が浮ん
 で居た。と實は思つたんだけど、良く見たら
 なんだ昨日から宮川さんと代つてしたに來
 た筈地さんだつた。昨日迄學生服を着て居た
 ので隠れていただけ、直ぐ判つた、今日は
 未だ早いのにと思つたが新調の背廣を着込ん
 ぢや何時迄も下宿には居られまいで、無理も
 ない話ぢやある。今日は宇佐見さんが物凄く
 機嫌がいい、屋上で日向ぼつこして居たら
 ガンダーが昨夕少しむくみましてと云ふ様な
 顔で、それでも顔神経だけはピクつかせやら
 「どいどい國時邊で行つて見るか」とか「春
 になるん事を云つてみただけ、富士山の姿

が餘り綺麗なのに思はれて開き洩らして了つ
 た「嫁を貰ふ時には筆箱一筆位贈るぜ」なん
 て事も云つた様な氣がした。こんな事を聞か
 されずとも耳には赤くなる時期なのに、人を
 冷笑して喜んで居る。だけども永年側で働い
 ちな事を云はれても憎めない。永年側で働い
 て来た故か取り付き難い割合に仲々さんみり
 した處のある、良く話し判る好々爺さんだ
 「ワーツ」みんなが一度にどつと笑つたのに
 腹驚して吾に選つたらタイヒストの吉村さん
 が僕の足許に轉つて居るボールを拾はうとし
 て魔眼々々して居るそうだった。氣が小さく
 人一倍恥かしがり屋吉村さんのおろ／＼した
 恰好にみんなが面白がつて笑つたのだつた。
 拾つてやたうとボールを掴んだら、あの人の
 手觸れてポツと赤くなつて了つた。またして
 も「ワーツ」だ。

何時の間にか駆け出したのか、自分でも判
 らなかつたが、背後からみんなの笑ひ聲が津
 浪の様に押し寄せて來る。今にも自分が倒れ
 て其浪に溶かされてしまひはしないだらうか
 と眞赤になつた顔をかゝえる様にしてエレベ
 ーターの處迄走つた。丸ちやんと擦違つた。あ
 り云ふけれど、それにも氣が付がなかつた。あ
 の事を考へる度に、故知らず顔が火照るのを
 どうしやうもない。勿論仕事なんか手につか
 ない、澤田さんまでが面白そうに笑つて居る
 社長さんも知つて居るんぢやないかな、平凡
 で退屈な毎日だから、こんな事でもなければ
 困る人達なんだ。自分のした事が辯解らしく
 なるが全くどうもかして居たんだ、之も皆春の
 故かも知れぬ。

四月二十九日

今日は朝から雨、日比谷劇場へ行く心算で
 出掛けたけれど何だか嫌な氣がしたので途中
 より歸つて來た、何時もそうなんだけれど
 雨が降つて來ると何んとなく頭が痛くなつて
 喧嘩の一つもしたくなくなる。こんな日には早
 後遊びに限ると思つたが、生憎近所の娘が夕食
 了つた。娘が歸つてから母が「あの娘は温順
 しくて優しい禮儀正しい人だ」と云つてくれ
 たのが何によりも嬉しかった、母の肩を揉ん
 で寝た時隣の犬がけたたましく啼いた。

母校便り

自衛團編成

去十二月八日米英と戦端開かれるや、全国に防空體制施かれ母校も一般防空と歩調を合すべく従来の特設防衛團を改組して自衛團を編成し實踐的體制を整へた。之には本隊と枝隊とあり、本隊は總務、警報、防火防毒、警護の各班に分れて防空、消防任務の中心となり、枝隊は報國隊の中隊之に當り總務班長の指揮に基き本隊に協力各枝隊別指定建物の防護の任に當るものである。

學生義勇軍冬期訓練に參加

冬期休業を利用し戦時下國家の要請する建設作業に従事せしめ、將來指導者として立つべき學生に勤勞精神を體得せしむる目的を以つて、全國農村更生協會の主催せる信越、北陸地域所在の大學、高專校有志學生の中に母校生徒廿三名も參加、十二月廿六日より四日迄の十日間新潟市の新潟滿蒙開拓館に合宿し、午前五時起床から七時朝食迄に室内清掃、國民儀禮、二里馳走、日本體操を行ひ、八時半より四時半迄新潟市郊外の道路建設、埋立工事に従事し、遠く北洋より襲ふ寒風に耐え、慣れぬ勞働に因る苦痛を克服して無事終了、無形の大收穫を得て元氣一杯に歸校した。同行職員は行元學生課長以下職員全部及び羽島教授で、參加生徒は次の諸君であつた。
(絲二)福島、山口、吉田、(鶴一)柿原、成瀬濱、牧野、粟月、百瀬(絲)梅村、清水、熊谷、高畑、野外、松尾、和田(紡)芝野、柳原(化)小山田、鹽原、中平、中本、尾藤。

週番制を設く

戦線の華々しい中に第三學期を迎えた母校では特に學生の自戒更正の肝要なるに鑑み各級に週番を設け(從來の總代制は存續)良風馴致に努めしめる事とした。本制度の規程は左の如くであつて、過去一ヶ月間に於ける實踐を目録に見る時、級風刷新に就ての意見、教務上の感想等が卒直に書かれてあり訓育上大いに資する所がある。

週番規程

- 昭和十七年一月
- 第一條 各學級ニ週番正副二名ヲ置ク
- 第二條 週番ハ當該學級生徒ニ就キ輪番ニ學校長之ヲ命ス
- 第三條 正週番ハ生徒主事ノ指揮ヲ受ケ其ノ組ノ風紀ノ取締、命令ノ傳達、教室内外ノ整頓、清潔ノ保持ニ任ジ、兼テ級風ノ振作ニ勉ムベシ
- 副週番ハ正週番ヲ輔佐シ正週番事故アルトキハ之ヲ代理ス
- 第四條 週番ハ毎日授業開始前迄ニ日誌ヲ認メ生徒主事ニ提出シシノ點檢ヲ受クベシ
- 第五條 週番ハ毎週土曜日放課後服務中ニ於ケル主要ナル事項ニ就テ生徒主事立會ノ上番下番申繼ノ授受ヲナスベシ

敬禮を擧手注目に改む

實戦下國民皆兵とまで呼ばれる折柄、母校では敬禮方法を擧手注目に改めることとし、一月八日學生課より次の如く告示した。

告示

制服、制帽着用の場合、戸外に於ける敬禮は擧手注目とす。但し長上に對しては停止して之を行ふべし。

冬期體育週間

兎角運動不足勝ちな冬期に於て一層體位向上を圖る目的を以つて本年度新たに一週間の體育週間を設け級別に三日間宛のスキー鍛練と武道鍛練及耐寒歩行を行つた。

即ち前期一月十五、六、七日の三日間は養蠶科及纖維化學科生徒全員約一二〇名が菅平スキー場に於てスキー講習及訓練をなし、後期十九、二十、二十一日の三日間は千曲公園へ耐寒歩行、大星神社へ武道長久祈願後柔、劍、製絲科及紡織科生徒全員一三〇名は前期に於て生島尾島神社に武運長久祈願、報國神社に英靈感謝献納後、柔、劍、弓道及スケート訓練を行ひ後期に於て前班と交代して菅平スキー場に於てスキー講習訓練を行つた。

武道寒稽古

報國團結成後第二年度の武道寒稽古は一月二十三日より二月一日迄の十日間柔、劍道は午前六時より一時間、弓道は午前七時より一時間行れたが、黎明の酷寒を衝いて毎日劍道約八〇名、柔道約四〇名、弓道約三〇名の出席を見、時局下若人の士氣を大いに發揮した。職員も井上團長、岡鍛練部長、原田劍道班長、湯原柔道班長、小川弓道班長の外石倉、佐藤(利)、佐藤(春)、奥、野口、齋藤、柳澤、小松、會田、山口、志賀、小林(尚)、町田、小山、小林(一)、藤本、目時、小林(鷹)等の各先生諸氏が出席されて鼓舞し、志賀助教は劍道、依田誠師範は柔道に各終始指導に努められた。

第二回日本文化講義

本年度第二回の日本文化講義が二月二日午後一時半より二時間餘に亘り講堂に於て東京帝大講師田邊尚雄氏の「日本を中心としたる

纖維動物學をやる

養蠶科では纖維増産の時勢に鑑み、一般纖維生産に關する學識、技術を興へる爲、從來の撰採課目蠶桑化學及同實驗を廢して新たに纖維動物學、纖維植物學及纖維生物學實驗を設け之と動物特別講義及同實驗と何れかを撰擇履修せしむることとした。

新年拜賀式

宣戰布告の大詔を拜し極めて緊張の中に新年を迎えた母校は元旦午前九時半講堂に拜賀式を舉行、校長は御留書を奉讀の後特に決戦下の自重奮勵を要請する所があつた。

第三學期

修業期限短縮に伴ふて當然休暇短縮が考へられたが文部省は之に對し指示をなし、冬期休業を一月七日迄と規定し、當校も一月八日に第三學期を始業した。本學期は三月二十四日に終り、四月一日より新學年の第一學期が始まる事になつてゐる。

書道研究會

文化部學藝班の中の書道研究會は石倉講師が指導役を勤められ校外より横關豊龍氏を師範に依頼し毎週金曜日放課後一時間半圖書室に於て研究練習會を行つてゐる。

文化部諸曲の會

文化部音楽班に屬する諸曲同好會の中の寶生會は諸生教授が其の指導役を勤められてゐるが、最近毎週土曜日放課後午後四時より九時迄稽古が續行されてゐる。

本會記事

本會日誌

一月十三日 理事會開催第二回總會決議事項處理に付協議す
一月廿四日 群馬支會總會開催せらる野口理事出席せり

支會役員異動

神奈川千曲會に於て一月二十一日支會總會開催左の通り役員改選せり
支會長(留任) 森田三郎
副支會長 大池鶴三郎

- 支會長(留任) 森田三郎
副支會長 大池鶴三郎
支會幹事 内山雄一
支會幹事 茂手重孝
支會幹事 根津重孝
支會幹事 津原重孝
支會幹事 山根重孝
支會幹事 林重孝
支會幹事 同重孝
支會幹事 同重孝

遠藤先生退官記念品贈呈資金受領報告

二月五日
山本 岩三郎 鈴木 高一行
小見 益三郎 小松 忠一郎
石坂 虎次郎 稻石 利三郎
小野 誠一 中澤 義三郎
出穂 誠一 上村 賢造
横山 良 上村 賢造
矢野 正 男 賢造

右合計金貳拾六圓也
累計金六百六拾貳圓也

銃後資金應募者

(頭書ニ1、トアルハ第一回離出者
2、トアルハ第二回離出者)

- 2金拾圓也 河井正
1金拾圓也 窪田真一
1金拾圓也 命木高行
2金貳圓也 鈴木誠一
2金貳圓也 石坂虎次郎
1金貳圓也 上村賢造
右合計金參拾四圓四拾錢也
累計金壹千五百五拾七圓九拾參錢也

會費領收

(二月五日)

完納會金

- 完納會金
香山 護(貳元)
島田 清(貳元)
山崎 保太(貳元)
尾澤 敏男(貳元)
伊藤 祐七(貳元)
中村治三郎(貳元)
藤松 利八(貳元)
井上 大(貳元)
重田 正喜(貳元)
水谷 清(貳元)
高橋 悟(貳元)
瀧澤捷伊(貳元)
松田 得治(貳元)
瀧野 文雄(貳元)
土生 瑠二(貳元)
山口 亮輔(貳元)
中原 亨(貳元)
小林 憲三(貳元)
金拾圓也
金五圓也

未納會費

- 未納會費
昭和三十七年度會費金四圓也
松谷鐵之助(貳元)
中島角太郎(貳元)
出穂 誠一(貳元)
重田 正喜(貳元)
山井 千幸(貳元)
安岡 美登(貳元)
昭和三十七年度會費金四圓也
若林 爲夫(貳元)
堀江 平三(貳元)
井上 大(貳元)
昭和三十八年度會費金四圓也
島田 清(貳元)
準會費昭和十六年度分金八拾錢也
橋詰美智子(教六)
終身會費
中村治三郎(初三) 今井 貞幸(貳元)

叙任辭令

叙任辭令
宮島徳一郎
公立實業學校校長
七級停下賜(十六年十二月三十一日)
現職員之部
上田 齋藤專門學校生徒主事補 志賀章雄
給參級停
同
給六級停(以上十二月二十七日)
卒業生之部
地方農林技師 前田 龜雄
八級停下賜(十六年十一月三十日)
公立實業學校教諭 精谷道三
七級停下賜(十六年十二月三十一日)
同 佐藤 尚雄
五級停下賜(十六年十二月二十七日)
地方農林技師 岸 勝彌
愛媛縣農林技師補(二月十六日) 小林 茂雄
六級停下賜(十六年十二月十八日) 永井 俊郎
長野縣農林技師 依田寛之介
地方農林技師補(補)
長野縣農林技師 依田寛之介
地方商工技師 三輪 貞徳
長野縣商工技師 補
地方商工技師 補
長野縣商工技師 補(以上一月十七日)
公立實業學校教諭 細川 護
願ニ依リ本職ヲ免ス(二月二十一日)
長野縣更級農業拓殖學校教諭 若林茂一
公立實業學校教諭ニ任ス、高等官七等特選
長野縣更級農業拓殖學校教諭ニ任ス、高等官七等特選
(一月二十三日)
公立實業學校教諭 花岡 作彌
六級停當分千七百貳拾圓下賜(十六年十二月三十一日)
同 兒玉 信尊
八級停當分千四百拾圓下賜(十六年十二月二十七日)
同
蠶絲試驗場技師 森山 二郎
七級停下賜 依願免本官(一月二十九日)

本校辭令

本校辭令
從六位 牧野金治郎
同 浦山 滋吉
同 寺島 親雄
同 五級停當分千九百圓下賜(十六年十二月三十一日)
同 菊田 恭一
願ニ依リ副手ヲ免ス(二月廿七日)
副手ヲ命ス 養蠶科勤務ヲ命ス(二月四日)
副手ヲ命ス 織維化學科勤務ヲ命ス(二月二十六日)
副手ヲ命ス 武井 和夫

會員通信

絲27 一心會

時の流れ

「兵隊とは大いなる子供である、そしてそこから大いなる子供としての兵隊哲學が生れて来る」とは小田の言である。
この兵隊哲學を小田が、田代が、飯田が、中川が、土居が、高橋が夫々人生最大の喜びとして學びつゝある。やがて岡田がその兵隊哲學を日本臣民最大の光榮として學ぼうとしてゐる。そして共にあはたたくも過ぎ行く月日の間に破邪の劍を振り、建設の礎として突進して行く。

銃後には海野が、野島が、高尾が、狩野が、菅川が、多くの一心會員がペンを取り、ハンマーを振り、ビスコースを製し、セリアレンを見乍ら勇ましくも職域奉公の誠を盡して前進して行く。
銃前も、銃後も皆一丸となりの確に突進して行く。而し迅速に悠久の眞理を追求し乍ら而も幾多先人の屍を礎とし、これを乗り越え前進して行かねばならぬ。そして個別別多として全體的なる吾人の突進前進、をして最大限の發揮と爲し、幾多の子孫の礎となる爲

に、彼等の幸福の基を形成せねばならぬ。そこには大人が子供に支配されることもなければ、聖人が狂人から征服されることも有り得ない。

そなたの発展だ、前進だ、建設だ。田中が病癒えて元氣となる。中川の盲腸炎が全快し、日出生まで演習に行き河野の故郷の空氣を吸ふ。中川士官の奮闘を祈る。

蠶二九會 (三福會)

東島帽子岳がほんのりと薄化粧し、暮もおしせまつた十二月二十六日、俺達は卒業期線上げ第一回卒業生として二年九月月のカレッジライフを暮れ逝く二千六百一年と共に惜しみつ、懐かしの校門を出た。そして上田を離れて一月後に當る一月二十六日には... 二月一日の名譽の門出を目前に多忙にも抑らず大君の御指として入營する吾等、クラスメイトの武運長久を祈る壯行會を喜樂に開催した。

進きぬを惜しむつと、感激と興奮の裡に校歌合唱、上田の街に否々クラスの者達にとゞけとは、大部分の諸兄は再び金澤で逢ふ日を約して解散した。

大久保、上野、大澤、北原、島田、原、中島、潜水、佐藤、重高、山岸、大塚の諸兄、これから入隊の諸兄の武運長久を祈ると共に同級生諸兄の武運長久と士で鍛へた頑強の身體で一層の御奮闘を祈る次第である。そして何年か後に會員の諸兄が無事松尾城下の菅田ヶ丘に參集し夜を徹して話し逢ふ機会を望んで居る。

入營を祝つて

皇紀二六〇一年十一月二日、赤紙ならぬ三銭の端書で召されたゴツタク部隊、遠くは彦根、近くは關東故郷、山懐しの想ひに胸膨らましては、弾丸血は躍る「スー」チャーン来たか、「お」次郎さん、背廣の錦は飾つても一寸と叩けば、おらへい、仲よ、皆昔鳴らした「専門さん」そして今皆信州へ歸つたのだ、山懐にならうか。それともあ、信州一、吾が故郷！ 須藤、菅野、井上、江山、佐藤、篠田、武井、渡邊、安岡、野村、倉本、佐野、藤原、例に依つて例の如く八月振りに車座になる。酒が依つた例の如く八月振りに車座になる。杯、御持參で遠征がはまる。さす手、シヤンテ、八番から専門さんに本領を發揮開始する。今日の日は如何に酔えるか、今日の日は如何に酔えるか、今日の日は如何に酔えるか、今日の日は如何に酔えるか。

開きたる門を繰りて、歌びは訪れ来る。我等今、杯合せ、歌ふなり、飲めい、歌へい、踊れい、千曲の流れの止まるまで、祖國建設の産業進歩士として、一年、而も三月、つたてから、山頂に叫ぶこととを許さな

思ふに、己が職場に於ける十五人の肩にも又眼、藤田、菅野、安岡、中原、川瀬、小林、清瀬、五名の入營である。そして總代官田は應召して、回りはカラーキ色になつた。思へば之れが最後の去來するの出来事であつた。思へば之れが最後の去來するの出来事であつた。思へば之れが最後の去來するの出来事であつた。

計報

昭和三十二年箱船科を卒業し日東紡績株式會社(福島市外)に勤務中同十三年に應召、中支戦線に於て奮闘され居たが昨年十二月三十日不幸にして敵彈に倒れ名譽の職死を遂げらる。痛惜に耐えず御冥福を祈る。

追繁氏逝去

昭和三十二年箱船科を卒業し日東紡績株式會社(福島市外)に勤務中同十三年に應召、中支戦線に於て奮闘され居たが昨年十二月三十日不幸にして敵彈に倒れ名譽の職死を遂げらる。痛惜に耐えず御冥福を祈る。

吊慰金報告

加賀好男氏吊慰金 石坂虎次郎、小松忠一郎
金貳圓也 鷹野 誠一
右合計金貳圓也
金貳圓也 目崎 武美
右合計金四圓也

右合計金貳圓也
故外城和氏吊慰金 目崎 武美
金貳圓也
右合計金貳圓也
故山田氏吊慰金 目崎 武美
金貳圓也
右合計金貳圓也
故伊藤氏吊慰金 目崎 武美
金貳圓也
右合計金貳圓也
故田中氏吊慰金 目崎 武美
金貳圓也
右合計金貳圓也

有志吊慰金に對する遺族よりの禮狀
鳥取縣岩美郡宇倍野村神理 長男 前田 晋介
故前田節男氏

吊慰金募集

故園田 信男氏 紡十八
故山田 幸三氏 紡十七
故秋山 幸三氏 紡十五
故正田 幸三氏 紡十五
故藤田 幸三氏 紡十五
故伊藤 幸三氏 紡十五
故山田 幸三氏 紡十五
故園田 幸三氏 紡十五
故園田 幸三氏 紡十五
昭和三十七年二月 千曲會

會 員 動 靜

(一月五日現在)

細谷金次郎 (現職) 本校教務課、履(住)長野縣小縣郡神村七六二
 廣川 正治 (舊職) 東京高等師範學校附屬中學校教諭(東京市小石川區大塚窪町)
 川島熊太郎 (蠶三) 滿洲國安東省立桓仁國民高等學校
 丸山 十吉 (蠶三) 茨城縣立鹿島農學校(鹿島郡鹿島町)
 三輪 貞徳 (蠶三) (勤)從前通(住)松本市中上町南區四三二
 內藤 良雄 (蠶四) 農林省總務局物資動員課(東京市麹町區大手町(住)從前通)
 兒玉 信尊 (蠶五) 農地開發營團東京事務所主事(東京市深川區佐賀町一ノ三〇)
 西澤 重光 (蠶七) 長野縣經濟部蠶絲課(長野市)
 森 亮平 (蠶七) 公用(留守宅)大邱府東雲町一四〇 森一夫
 岡 卓郎 (蠶六) 國立農事試驗場安東支場(滿洲國安東市大和區大和橋通三九)
 齊藤 軍二 (蠶六) 四平高等女學校 滿洲國四平市四平市(住)四平市省平橋通六四ノ一
 竹内 博雄 (蠶九) 石川縣立津幡農學校(河北郡津幡町(住)津幡町本町清水區 酒井與之一方
 塚本 優 (蠶三) 埼玉縣立杉戸農學校(杉戸町(住)北葛飾郡杉戸町大字杉戸二二三
 青木 幹夫 (蠶三) 奉天市公署經濟科(奉天市)
 川谷壽一郎 (蠶三) 鐘紡營業部蠶業部(神戸市林田區御崎町一ノ一)
 羽藤 泉 (蠶三) (勤)從前通(住)松山市花園町二ノ八二
 玉田城三郎 (蠶四) 奉天省康平縣滿洲棉花株式會社
 佐藤 祐三 (蠶五) 大東紡織、沼津工場(沼津市七反田(住)沼津市平町一〇八
 石井忠太郎 農林省食糧管理局第一分部企畫課(住)東京市杉並區萩窪二ノ六後樂莊アパート
 市原 政治 (蠶五) 日本勸業銀行(住)東京市牛込區富久町七〇 天野方
 荻原 和夫 (蠶六) (勤)從前通(住)橫須賀市深田町二七三熊澤方
 山田 次男 (蠶六) 千葉市陸軍步兵學校櫻井隊(留守宅)上田市櫻木町一七五
 小山 長雄 (蠶六) 公用(留守宅)大阪市西淀川區大仁本町二ノ六二大坪輝雄
 大坪 健一 (蠶六) (住)京都市北白川別當町五〇 大西方
 松尾 卓見 (蠶二) 日本蠶絲統制株式會社蠶繭課(東京市麹町區有樂町(住)從前通)
 小林 茂雄 (絲二) 天龍社ヲ退社(住)長野縣下伊那郡那那村中平
 鈴木 孫市 (絲四) (住)愛知縣額田郡幸田村麥地字寺西七九
 橋本 登吉 (絲四) 確永社ヲ退社(住)高崎市昭和町一九二 電話六二
 小笠原精三 (絲八) 天龍社ヲ退社(住)長野縣下伊那郡那那村中平
 富田庄三郎 (絲八) 鐘紡 東大門工場(京城市新設町六一)
 依田寛之介 (絲三) 長野縣松本工業試驗場商工技術師(松本市榮町)
 田口 榮治 (絲三) 片倉製絲紡績株式會社(東京市京橋區京橋三ノ二片倉ビル(住)大宮市大宮二、七八〇)
 兒玉 來 (絲三) (勤)從前通(住)松江市石橋町六一
 南井 孝三 (絲三) 鐘紡營業部蠶業部製絲研究所(神戸市林田區御崎町一丁目)
 永井 俊郎 (絲六) 長野縣南檢定所篠之井支所長技師(篠之井町)
 松井 正次 (絲三) 公用(留守宅)京都市府何鹿郡東上林村宇陸寄

野尻 白二 (絲四) 香川縣南檢定所長(木田郡平井町池戶)
 兒玉 逸夫 (絲七) 蠶絲包裝材料統制株式會社(東京市下谷區上車坂町二九新田ビル)
 原井 國男 (絲二) 岩手縣南檢定所(盛岡市仙北町)
 赤松 與一 (絲二) 大日本生絲販賣組合聯合會(橫濱市中區北中通六ノ七七帝蠶ビル)
 (住)從前通
 四方 藤雄 (絲二) 那是製絲試驗工場(京都市府何鹿郡綾部町)
 小口 伊祐 (絲五) 神樂製絲株式會社(神戸市神戶區明石町一九)
 高橋 直 (絲三) 片倉製絲、鹿兒島工場(鹿兒島市原良町)
 山本 英雄 (絲三) 東亞副蠶絲輸入株式會社(大阪府東區備前町三ノ一〇〇)
 林 繁夫 (絲三) 勤ナシ(住)高松市松島町一丁目
 吉越 繁夫 (絲三) 日本レイヨン株式會社(大阪府東區今橋三ノ五)
 片岡 金一 (絲三) (勤)從前通(住)神奈川縣高座郡茅ヶ崎町新町一ノ六、〇六五
 尾澤 敏男 (絲三) 鐘紡澁川支店(大阪府旭區友淵町(住)兵庫縣武庫郡本山村森三〇九
 有賀 茂 (絲三) 片倉製化學工場(埼玉縣大宮市)
 岡田 重一 (絲三) 召集解除(住)東京府下武藏野町西窪七五八
 秋山 實 (絲三) 公用(留守宅)長野縣北佐久郡岩村町六二八秋山治部右衛門
 鈴木 武夫 (絲三) 吳羽紡績、錦工場(福島縣石城郡錦町宇中田(住)平市田町一六 電話三五〇)
 井生 茂 (絲三) 光海軍工廠總務部(山口縣熊毛郡那光町(住)熊毛郡勝間村遠見 公用)
 福本 貞雄 (絲三) 召集解除(勤)埼玉縣本庄町、丸庄製絲會社
 土生 敏二 (絲三) 片倉松江工場(松江市東朝日町)
 原口惣一郎 (絲三) 召集解除(勤)埼玉縣本庄町、丸庄製絲會社
 宮尾三右衛門(絲三) 滿洲織維聯合會(新京特別市日本橋通三〇)
 楠森 定男 (絲三) (勤)ナシ(住)三重縣飯南郡花園町内五曲八七
 松野 正 (絲三) (勤)從前通(住)橫濱市磯子區谷津町三七一清友莊内
 小川 政夫 (絲三) (住)大阪府中河內郡大戸村石切四七二ノ一
 小林 良亙 (絲二) 日本蠶絲統制株式會社代行、全絲聯前橋事務所(前橋市榮町一〇〇)
 香山 清和 (絲三) 滿洲織維聯合會奉天支所業務第一課長(奉天市大和區加茂町八番地)
 (住)奉天市稻葉町九番地
 岡 豊治郎 (絲五) 愛知縣經濟部商工課勸務、織維製品監督愛知縣織物工業組合檢査所尾北支所主任、織協愛知縣織維製品檢査所尾北支所主任(丹羽郡古知野町(通信先)津島町天神町二、〇一三)
 市原 安臣 (紡七) 公用(留守宅)岐阜市本莊羽衣町一丁目
 高橋 眞澄 (紡七) 昭和産業、大島研究所(東京市城東區大島町八ノ一四五)
 吉田 亮 (紡七) 大阪府毛織物檢査所ヲ退所
 內藤 邦雄 (紡九) 商工省織維局絹毛課(東京市京橋區木挽町)
 田村朝之助 (紡二) 日本レイヨン株式會社(前橋市岩神町(住)前橋市諏訪町六二
 柴田 久 (紡四) 日本レイヨン高崎工場(高崎市大橋町一七六(住)高崎市並根町三
 中野 哲秀 (紡四) 大日本紡績、春木工場(大阪府泉南郡春木町(住)岸和田市並松町、大日本紡績社員會所)
 村橋 決 (紡四) 石川縣織物檢査所大聖寺支所(石川縣江沼郡大聖寺町八間通(住)金澤市石坂與力町一二番地)

- 門田 勇 (紡五) 大日本紡績、東京製絨工場 (東京市荒川區三河島町二ノ一、〇八八)
 (住)三河島町五ノ四四五
 平野 庄一 (紡六) 公用(留守宅)静岡縣濱松市龜山町一五七平野不二
 福永 雄三 (紡七) 日本レヨン前橋工場(群馬縣前橋市岩神町一、〇八四)(住)前橋市
 萩町一二島田貞方
 木村 敏一 (紡八) 朝日紡績會社(滋賀縣栗田郡草津町)公用(留守宅)山口縣宇部市下條
 遺藤 恒久 (紡三) 公用(留守宅)仙台市荒牧釜場一ノ二 父 遺藤誠道
 東 正雄 (紡三) 公用(留守宅)大阪府三島郡戸伏八五四東貞次郎
 仲藤 潮 (教四) 賣木青年學校(長野縣下伊那郡豐村)(住)豐村大字賣木 松村廉方
 多田 滿 (教四) (住)上田市常入 三戸部方
 小林 澄子 (教六) (舊姓中澤)(住)神奈川縣川崎市中瀬町三ノ六一小林茂方(本籍地)長
 野縣小縣郡西鹽田村四五五
 金田トミ子 (教七) (住)岡山縣勝田郡新野村日本原(主人公用中)
 田村二三子 (教八) 富士電氣株式會社、庶務課、産報係(川口市)

編輯室より

△時々春らしい日にも恵まれるが餘寒仲々
 烈しく寒さは米だ餘程續ぐと思はれる。然し
 天氣の良い日が續いて具合がよい、菅平には
 時々新雪が降つてスキー鍛練は益々出来る由
 △ △ △
 △此の三學期が始まつたと思ふ間もなく、新
 學年が目睫の間に迫つた。學年代りではない
 が九月卒業を控へてゐる二年生は本月二十三
 日から授業丈は第三學年のものに入る譯であ
 る。

△去る十二月卒業の會員には就職後間もなく
 軍務に赴くと言ふことになつてあり届け先が
 不明であつたので、一月號を御送附しなかつ
 た。然し此の頃は大體去就が定つた様である
 から本月號と一緒に送る筈である故御原諒願
 ひたい。
 尙其等會員の勤務先や入隊先に就いて御通
 知のない者が相當ある様であるので、御早く
 御通知(郵便部)へ願ひたい次第である。
 (小松、町田)

原稿募集

此の大東亞決戦下吾々技術者の使命は
 大きい。吾々は國民としてののみならず
 技術者として一段の發展を期さねばな
 らぬ。それが爲に本誌をしても一層お
 互の連絡と教導の機關ならしめたい。
 各位にはこの意味をより一層認められ
 てその任を果し得る様各位の研究調査
 記事、論説、隨筆等の御寄稿を切に願
 ふ次第である。

編輯室

昭和十七年二月廿二日印刷
 昭和十七年二月廿五日發行 (非賣品)

上田蠶絲專門學校内
 編輯人 小松 忠 一郎
 發行所 上田市原町五七九五
 印刷所 上田市原町五七九五
 上田蠶絲專門學校内
 發行所 千曲 會
 電話 五五〇六、六六六
 振替口座 長野 六三三三

御挨拶

拜啓 時局重大且多端の折柄各位愈々御清榮に被爲渉候段奉慶賀候
 陳者毎々格別之御懇情を賜り居候

合資會社 平山製作所
 株式會社 宮島製作所
 加賀製作所
 第二商店

は刻下時局の重大性に鑑み國策に順應す可く日本蠶絲機械工業組合の御徳意
 に依り企業之合同を計畫致し昨冬日本蠶絲機械興業株式會社を創立法規に基
 き諸手續を取り進め居り候處今般登記も完了し主務官廳より正式認可有之候
 間右四工場之製作並に營業之全部を繼承し爾今新會社に於て業務一切を執行
 致事相成候

就而は必勝態勢下に於て臣道實踐職域奉公の至誠を以て最も優秀なる蠶絲機
 械附屬品並に諸機械工具類を迅速且低廉顧客本位に製作販賣し以而從來の御
 高恩の萬分の一にも酬ひ度く堅き決意の許に社員一同一致協力各位の御期待
 に副ふ可く最善の努力仕る覺悟に御座候に付ては何卒今後共四工場同様の
 御眷顧と御指導を相仰ぎ度奉懇願候

尙從來の各人工場は別紙の通り改稱し營業可仕候間宜敷御願申上候
 先は右以寸楮御挨拶々々御願ひ迄如斯御座候 敬具

昭和十七年二月一日

日本蠶絲機械興業株式會社

取締役社長 平山 宇市
 專務取締役 宮島 定義
 取締役 加賀 菊次郎
 同 上原 喜幸
 同 増田 重雄
 同 宮島 正次
 同 平山 治